

令和4年度第3回支部長会

総務・企画部

令和5年2月4日(土)午後3時より、明治記念館「孔雀の間」に於いて、狩野総務・企画部長進行のもと「令和4年度第3回支部長会」が開催された。

先ず始めに、新井副会長より開会が宣言された後、伊藤会長の挨拶では「3年ぶりに賀詞交歓会が開催されることを嬉しく思う。ただ、コロナ禍の為、飲食を伴う会を開催できなかったことは非常に残念ではあるが、今日は、各支部長が中心となって来賓の皆様をおもてなししてほしい」と述べられた。また、最近の支部長メーリングリスト上で散見される、行き過ぎた議論や言動について危惧され「お互い礼節をもって議論や行動をしていただきたい」と、3年ぶりに開催される賀詞交歓会と組織内のより良い環境作りに対して熱く語られた。



次に、前回の支部長会で未決定であった選挙管理委員長・副委員長の選定について、改めて選挙管理委員となった方々に議論いただいた結果、委員長に無藤龍雄 豊島支部長、副委員長に湯川淳 墨田支部長が互選により選任された。



引き続き行われた「各部報告」では、それぞれ担当部長より詳細な説明がなされた。

・小池保険部長より、

「クレジットカード決済について」

・吉田広報・情報管理部長より、

「ホームページのリニューアルについて」



・狩野総務・企画部長より、

「4月16日(日)開催の都柔整70周年事業について」

「本日の賀詞交歓会に於ける来賓の欠席状況と支部長の職務について」

最後に、質疑応答にて各担当理事から説明が行われ、深井専務理事の閉会の辞にて第4回支部長会は終了した。今回の支部長会では、一部の支部長が理事者と白熱した議論がなされる場面があったが、理事者はコロナ禍に於ける会員のことを慮おもんぶることに加え、この柔整業界をより良い業界にしたいと思いが

ら日々努力している。伊藤会長が挨拶でも述べたように、「業界を良くしたい」と思う気持ちで議論するならば、最低限の礼節は保つべきではないだろうか。現在、日整と国との間では柔整業界の未来を拓くオンライン資格確認、オンライン請求などのデジタル化についての協議が行われている。デジタル化に向けては、受領委任制度が規程通り運用されることが前提とされ、これは公益社団柔整師会をはじめ、受領委任制度を規定通り運用している柔整師にとっては最大のメリットをもたらすことになる。今こそ公益社団・社団会員は一枚岩でいることが重要だと考える。

そして、料金改定など日整が国との交渉を進めるにあたり、組織力強化のために会員数を増加させることは急務であり、公益社団の会員が一致団結して進む為には情報の共有化は必須である。昨今、あまりにも不正確な情報が氾濫する世の中でもあり、如何に正しい情報を的確に入手するかが重要となってくる。いつまでも出どころも内容も曖昧で誤った情報に振り回されることなく、公益社団の会員と執行部とが同じベクトル(方向)に向かって行動することで、公益社団会員にとって最大のメリットが得られるようにしたい。